

参加無料

予約不要

2013年度 愛知県立大学 高等言語教育研究所主催 講演会

ポライトネスから見た 日本語と外国語

もう一つのコミュニケーション

〈日時〉

2013年
12月9日[月]

PM4:10~PM5:40

〈場所〉

愛知県立大学
長久手キャンパス
特別講義棟S201

リニモ「愛・地球博記念公園」駅下車 徒歩5分

〈講師〉

滝浦 真人 TAKIURA Masato

「ポライトネス」という言葉、聞いたことがありますか?(ありますね、きっと後期の授業で。)ポライトネスとは「対人配慮」のことなのですが、日本語で配慮というと丁寧さの方に意識が行きがちです。でも、人を“敬して避ける”遠慮も、“仲間として近づく”共感も、ともに等しくポライトネスでありえます。

言語ごとにポライトネスの好みや癖があります。日本語のコミュニケーションは、遠ざけ一辺倒と言っていいほど対人距離がとられます。(どうして遠ざけ一辺倒になってしまったか?についても考えたいと思います。)近づけ一辺倒と思われがちな英語ですが、意外な一面もあります。どちらもあるけれど近づきが基本というのが中国語です。ポライトネスのやりとりは、話し手が聞き手との対人関係をどうとらえる(とらえたい)かの認識や願望をやりとりすることでもあります。それはコミュニケーションと同時進行のもう一つのコミュニケーションなのです。

●プロフィール／放送大学教授。1962年岩手県生まれ。東京大学文学部卒、同大学院人文科学研究科博士課程中退。共立女子短期大学、麗澤大学を経て現職。専門は言語学、とくに語用論、コミュニケーション論。対人関係にかかわる言語の機能を中心に、ポライトネスや敬語に関する研究にたずさわる。著書に「日本の敬語論」(2005年、大修館書店)、「ポライトネス入門」(2008年、研究社)、「日本語は親しさを伝えられるか」(2013年、岩波書店)など。

問い合わせ先

愛知県立大学 高等言語教育研究所 TEL.0561-64-1111 (代表)
E-mail gengoken@for.aichi-pu.ac.jp